

求め・敬い・磨いたあの日々

- 研修所修了生からのメッセージ -

柿野浦の研修所を巣立った研修生はこの10年で63名を数え、今、それぞれの道を歩んでいます。その中から5名の修了生に研修所への思いを語ってもらいました

十七期研修生 池浩一



研修生当時の池さん。中央

僕は、鼓童が存在している理由や目的、その方向性に惹かれ、そこに至るに研修が必要ということで佐渡にやって来ました。和の世界とは無縁だったそれまで、でも知らない世界で自分でできるものは全部試してみたいという気持ちがありました。振り返れば研修の二年間は、限られた時間内で本当に沢山のことを体験させてもらいました。向上心、限界に挑戦することなど一人でやることも多かったけれど、後輩に教えることや協調性を学び、周りの人がいたからこそ成し遂げられた一年間。

現在は江ノ島のイタリア料理店「カテリーナ・テ・メディチ」の店長をしています。イタリアの良い食材・食品に気軽に触れていただきたいので、値段は抑えながらも味サービスにはこだわりの持ち、フラットと来てみたけど気に入ったと言ってもらえるような心配りでお客様をお迎えしたいと思っ

ています。仕事で人を束ねる、隅々まで気を遣う、我慢する、不規則な時間に耐える、すべて研修所時代に頑張れたことがベースになっていますね。

後輩の研修生には、何の為に研修所に来たのかをいつも考えて欲しいです。研修所は自らが考えて身体を使い、心を使って、体力、精神力を養える場所。わざわざ佐渡まで来て、生活が都会に住んでいるのと同じじゃ、しょうがない。最初から疑問でかからずやるだけやって、自分達にもっと負荷をかけてみる。異常なまでに訓練したことが、終わってみての充実感になります。

卒業した同期や後輩と会った時に話が出るのは、それぞれの今の職場や学校で周りの人から他の同年代とはちよつと違うと言われるということ。自分達でははつきり分らないけれど、この研修所生活がきっかけとなり、考えが変わってそれぞれが新たな自分らしさで進んでいっているのかなあと考えます。

それだけ後で実になる、人と違った経験をしているんだから、今の時間を大切に頑張ってってください。

十八期研修生 石塚充(舞台メンバー)

とにかく太鼓が叩きたくて、鼓童の研修所に入ったのが六年前。ひたすら自分を叩いて叩いて磨いていく毎日。あの木造校舎が「修行の場」でした。舞台にあがって、今は今が修行。今いるここが修行の場!!と叩きまくってきたので、研修所が今年で十周年といっても特に感慨深いとかさういふ気分はあまりないんです。正直

…でも、ふと気づけば現舞台メンバーの半分はもう岩首研修所の出身!!

おんなじあの校舎で修行してきたこの顔ぶれが、これからの鼓童を…なんて考えると…やっぱりドキドキワクワクします。



二〇期研修生 中野麻弓

岩首研修所十周年おめでとうございます。佐渡に住む現在。研修所生活で見つけた私のあり方、答えがありました。一つの民俗芸能を追求したい。本物を知る。それにはその土地で生活し、地元の人達と日常から関わり、その土地のよさも悪さも全部含めて愛し、感謝すること。暮らしから生まれる思いが芸能を育て、人の心を打つということでした。鬼太鼓を通して様々な出会いと経験、祭りを大切に作る気持ち、心地よい緊張、自分の舞いへの葛藤…本当にたくさん瞬間を感じてきました。研修生の時、岩首の方に聞いたことがありました。「佐渡

研修所2005



を離れようと思ったことないの？」返事は「鬼太鼓があるから佐渡にいるんだ。鬼が好きだから。」なるほど。今ものすごくその気持ち分かる。そうしてたまらなく佐渡が好きで離れられない自分がいいます。



二期研修生 ジョン内倉

研修所を離れてから、もう早二年間経ちました。本職に戻り、現在山形で中学生に英語を教えています。表面では研修以前の暮らしと変わりが無いように見えるかも知れませんが、佐渡の二年間は今の生活の中に生きています。去年の四月から初めて山形に住むことになりましたが、早速花笠踊りに挑戦し、二年続けてパレードに出ています。さらに、中学生に花笠踊りを教えて、今年初めてパレードに参加することになりました。男踊りはとても激しくて、かなりハードな踊りですが、パレードが終わってからの生徒の表情にはすごい達成感がありました。参加して本当に良かったと思いま

した。正直に言うと、私は踊りの覚えは悪くて、研修生時代は教えてくれた先生と地元の方に散々迷惑をかけました。しかし、祭りの大切さは本当に身に沁みるほどわかるようになりました。伝統を受け継ぎながら絆を作るものであります。研修所の時期がなかったら、絶対花笠はやらなかったでしょう。研修生活が私に地域に貢献する意識とその喜びを教えてくださいました。



二期研修生 喜内美和(スタッフ) 学び舎

「経験してみませんか」の文句に引かれて研修所にやって来たものの「人の教養とは何ですか？」の問いに何も答えられない当時二七歳の未熟な私。佐渡の自然と向き合う中でちっぽけな自分の存在を確認しました。鼓童の研修所での稽古や生活を通し

て日本の風土やそこから生まれる芸能についてなど、今まで気付いていなかった様々なことに目を向けることができました。今後は、佐渡について自分なりに知識を増やして行きたいと思っています。

研修一年生の時に鼓童のお話を聞く時間がありました。「鼓童村構想」という図を見た時に「なんて面白いグループなんだろっ自分も関わりたい。」と思いました。太鼓の響きを全身で感じるといつも大きな勇気をもたらします。「みんなの笑顔を広げられる」そんな仕事をしたい、そんな人になりたいと思っています。

鼓童の研修所の門を叩いたことは、人生の徳を得たと改めて感じております。贅沢な時間をもつことのできた事に御世話になった多くの方々に感謝しております。ありがとうございました。

